

現代におけるイスラム金融

早稲田大学 北村歳治

古代の交通規則のようなイスラム金融は、なぜ現代の金融において注目されるのか。原油価格上昇を背景とした中東の資金余剰という要因だけで説明できるのか。現代のロンドン金融市場は、イスラム金融のビジネスを確保しようとしているが、その基本的な考えは何か。古典的な中東イスラムに比較して、新興経済のマレーシアを中心とするイスラム金融は、どのような点で異なっているのか。日本へのインプリケーションは何か。

このような問題意識を背景に、財務省の研究会は 2006 年秋から一連の調査と議論を重ねてきたが、その成果は同省のウェブサイトにも掲載されている。

今回の報告は、上記の研究報告の最終章「現代におけるイスラム金融」を踏まえたものであり、次のような内容で構成されている。

1. イスラム金融は、ホールセールの段階では現代的な金融・情報通信技術に支えられている。イスラム金融の商品・サービスは複雑な契約構成が必要となるが、そのためには金融サービスの機能分解・金融工学の応用等が見られ、また、投資家等のきめ細かい注文に対応するために今日的な情報通信技術にも依存している。
2. イスラム金融の担い手は、資金の供給では、産油国の資金余剰に加え、最近では中東に限らず EU 域内のイスラム教徒、その他一般の投資家をも含んでいる。資金調達では、シンジケート・ローン、イスラム債を通じてマレーシアや中東地域等における大規模な港湾、通信インフラ整備等のものが現れている。金融仲介では、欧米の金融機関任せから一歩進んで、イスラムの資本で設立されたイスラム金融機関の活躍も顕著になっている。
3. このようなイスラム金融は、さまざまな難問に直面している。(1)イスラム金融におけるシャリアの位置づけ(シャリアの解釈・適用が学派によって相違しがちなことに加え、異時点でも利子概念等の解釈が異なってくる問題)、(2)イスラム金融の地域的な特徴と相違(金融サービスの標準化の問題)、及び(3)イスラム金融の直面する問題(プロフィット・ロスの共有の原則<PLS>が何処まで貫けるか、コーポレート・ガバナンスに与える影響の問題)。これらの問題を批判的に検討する必要がある。
4. 先進国では、ホールセールのイスラム金融(産油国の余剰資金の運用等)はもちろん、リテールのイスラム金融においても、英国のみならず米国等でも何らかの対応が始まっている。日本はこれまでイスラム金融と無縁でいられたが、今後における対応と可能性を探る必要がある。